

第59回全国植樹祭

～手をつなごう 森と水とわたしたち～

第59回全国植樹祭が6月15日、北秋田市北欧の森公園で開催されました。県内外から約1万1500人が参加し、町からは松田町長はじめ、千屋小学校児童、自然保護指導員など約65人が参加しました。

式典では、天皇陛下のお言葉の後表彰が行われ、千屋小学校が秋田県学校緑化関係コンクール知事賞を、七滝土地改良区(武藤威理事長)が秋田県ふるさと水と緑賞を受賞しました。

また、天皇、皇后陛下のお手植え、お手播きに合わせ、県内25市町村から選ばれた三世代家族(親、子、孫)により記念植樹を行い、続いて、町出身で前東大学長の佐々木毅国土緑化推進機構理事長が「水と緑をはぐくむ森林づくりを目指し、国民参加の森林づくりを一層推進する」などの大会宣言を読み上げました。

町代表の三世代記念植樹に参加した山代敏伸さん(大坂、大曲高1年)は「秋田での植樹祭で、個人的にも県全体にも自然に対する関心が高まり良い機会になったと思う。木々は数十年かけて大きくなるもの、この秋田の大自然を守り、次の世代、そのまた次の世代へと残していけるようにしたい。」と自然環境への思いを新たにしました。



家族三世代でブナの苗木を植える、左から山代和実さん、功さん、敏伸さん。(高橋正二さん(元本堂北部)撮影)

「自主・自立・共働・共助」の
理念のもと生涯現役で

美郷町シルバー人材センター

平成19年3月に社団法人となった美郷町シルバー人材センター(高橋優理事長)の通常総会が5月28日開かれました。

同センターの会員は現在221名で、平均年齢68.4歳。官公署や民間企業、一般家庭に働きかけ、長年培ってきた豊富な知識と経験、技能を生かした仕事を提供し、平成19年度は1,342件、28,480千円の事業実績を残しました。

また、仕事内容の多様化に対応するため、緑地保全管理や住宅内装などの技能講習会を開催して、会員の技能習得を図っています。

高橋優理事長は冒頭のあいさつで「今後は地域で働く意欲のある会員がどう社会貢献していくかが課題であり、ラベンダー祭りや美郷フェスタなどの町のイベントに積極的に参加しPRしていきたい。」と述べました。



創立60周年記念招待野球

六郷高校

六郷高校(釜田章太郎校長、生徒数408人)が6月18日、創立60周年記念事業の一環として、岩手県立盛岡第四高校を招き大仙市大曲球場で招待野球試合を行いました。

盛岡第四高校は昨年の秋季東北地区高校野球岩手県大会で優勝しているチーム。試合は盛岡第四が2回裏に1点を先制し、中盤にかけて試合を優位に進めました。六郷は7回表に一矢報いるものの、健闘及ばず1対12で敗れました。

六郷高校は昭和23年4月5日に大曲農業高等学校定時課程六郷分校として開校、昭和25年4月1日に六郷高等学校として独立しました。今年10月10日に記念式典を行います。



のみくい処“魚民”のメニューに登場しています 仁手古サイダー



魚民「夏のおすすめメニュー」より抜粋。

仁手古サイダーが登場する御当地メニュー期間は六月五日(木)～九月四日(木)までの三ヶ月間で、「魚民」は全国に約二八〇店舗あり、県内は秋田駅前店一店舗のみ。全国に紹介してはいかがでしょうか。

「白木屋」笑笑などの飲食店を国内外に経営する株式会社モンテローザの「のみくい処魚民」のメニューに、町内産品の仁手古サイダーが登場しています。

「魚民」の夏のおすすめ”御当地メニュー“に秋田県と青森県の食材が取り入れられることになり、秋田県産業経済労働部食彩あきた推進チームの推薦により、秋田県からは仁手古サイダーのほかに横手焼きそば、いぶりがっこ、稲庭うどんなどが選ばれました。

五月に一万四千本出荷した製造元の六郷まちづくり株式会社管理主任荒田直樹さんは「地元の商品がこのような形で発信できてうれしい。今後、後にも多くの人に知っていただければ。」と語り、期間中は毎月一万五千本の需要が見込まれ、夏の贈答期間と重なることから、春からフル稼働で製造に追われているとのことでした。



▲6月23日、釜蓋行政区で行われたやまびこ座談会で質問に答える松田町長(写真中央)

「思いやりと実践」

美郷町長 松田 知己

雨上がりの風景。目に映る緑は実に清々しいものです。物理的には、雨が空気中の塵を洗い流してくれるためと言われています。これと同様、心洗われる思いをした後の気持ちも実に清々しいもので、先日、北秋田市でそんな経験をしてきました。

場所は全国植樹祭の会場。天皇、皇后両陛下のご臨席のもと、肅々と進められた式典。メインイベントの両陛下によるお手植えが始まってから、「おやつ」と思った後、じわじわと感動が湧きあがり、そして実に幸せで爽やかな気持ちになりました。

お手植えは、両陛下が鋏をお持ちになり、苗木に土を寄せるものでしたが、その補助は緑の少年団が務めておりました。両陛下の鋏作業に合わせ、緑の少年団が素手で周辺の土を寄せておりましたが、その途中、皇后陛下が鋏を動かす手を休め、腰をかがめて素手で土寄せを行いました。「おやつ」と思ったのはここです。何故、皇后陛下は鋏を休め、素手

で土寄せを行ったのか。僭越ながら、そのお心を忖度してみました。浮かんでくるのは、緑の少年団員への思いやりです。それを皇后陛下は実践されたのだと思います。そう考えたら、ふいに感動が湧き上がってきました。私にとって心を洗われた瞬間でした。

最近、経済的な閉塞感が底流にあつてか、どうも社会全般に思いやりが足りないように思います。もちろん、価値観が多様化している現代ですので、その判断は単純にはできない訳ですが、皇后陛下の所作に心洗われた私としては、改めて思いやりと実践の大切さを実感しました。更に植樹祭ということもあって、自然環境への思いやりと実践も人間関係と同様、大切にしなければならぬ思いを一層強くした次第です。

現在、町で取り組んでいる水環境保全。美郷が美郷として存続していくための根幹です。その根幹は誰かが守ってくれるものではなく、住民自らが守っていかなくてはなりません。そのためには、第一に水への思いやりを持つこと。第二にそれぞれが考え、できることから実践すること。そして第三にその活動を連携させていくことではないかと思えます。水の美味しさをより実感するこれからの時期、是非皆さんで共通認識を持ちたいものです。

7月のふれあい談話室

7月28日(月) 役場六郷庁舎 2階町長室
午後5時から午後6時30分
ご希望のかたは前日までお申し込みください。

問い合わせ

役場(六郷庁舎)総務課 秘書広報班
☎0187(84)1111

移動町長室

町長が毎週火曜日に仙南庁舎、木曜日に千畑庁舎で執務しています。(会議への出席などにより、実施できない場合があります)